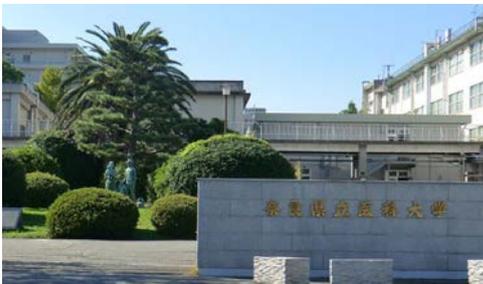


奈良県立医科大学整形外科学教室 留学記

愛徳医療福祉センター 浅井宣樹

平成 20 年整形外科学教室入局の浅井宣樹です。私は 2018 年 7 月から 2019 年 6 月までの 1 年間を奈良県立医科大学整形外科学教室の足の外科診療チームへ国内留学させていただきました。奈良県立医科大学は奈良県橿原市に位置し 27 診療科、992 床を有する県内唯一の特定機能病院です。橿原市は特色である取り組みとして医学を基礎とするまちづくり (Medicine-Based Town) 構想を展開しており民間企業と提携して医学との新しい産業を生み出したり、また町ぐるみで海外からの留学生を招待する設備を整えるなど医学に対する活気であふれています。



奈良県立医科大学の整形外科は 1954 年 10 月に故恩地裕教授により開設され、現在 2009 年より足の外科を専門分野とされる田中康仁先生が 5 代目教授として就任されております。日本のみならず世界にも名高い奈良医大の足の外科チームであるため、国内からはもちろん国外からの留学生も常に絶えず在籍しています。足の外科チームの手術日は月曜日と木曜日の週 2 日であり、1 日に 1~3 例ほどの手術が行われています。私の留学期間の 1 年でおおよそ 150 例の足の外科の手術を行っており、ほぼ全ての手術に入らせて頂くことができました。外反母趾や変形性足関節症などの変性疾患に対する手術はもちろんのこと、外傷後の症状遺残や他院での手術後の難

治症例など手術は多岐に及びます。

また学問的にも海外との交流が盛んであり、大学で多くの外国留学生を受け入れるのみならず、年に1回タイのチェンマイ大学でのカダバーを用いた研究・調査が行われています。また奈良・中国・韓国の3カ国の大学が定期的に集まり足の外科に関する勉強会を開催しています。



2018年10月には第33回日本整形外科学会基礎学術集会在奈良県立医科大学主催で開かれ、医局員の先生方と一緒に私もお手伝いをさせていただきました。

多くの留学生の一人にすぎない私に対しても、経験豊富な先生方に非常にご親切・丁寧に御指導をいただいたのはとてもありがたい経験でありました。

手術の麻酔に関してですが、患者さんの状態により伝達ブロックが困難であったり（小児例、不安が強いなど）、あるいは手術において腸骨採取などのように下肢以外に手技が及ぶ場合以外では、ほとんどの手術は下肢の伝達ブロック下にて行われます。伝達ブロックは手術前に処置室にてエコー下に坐骨神経と伏在神経に麻酔薬を注射することにより行われます。全身麻酔や腰椎麻酔と比較して循環動態や消化器系統への影響が少なく、そのため手術が終わるとすぐに飲食やトイレなどの移動が可能という非常に安全性の高い手技であり、また留学生の私たちにも積極的に実際に伝達麻酔を施行する機会を与えていただきました。現在私も和歌山に戻って臨床を

しておりますが、足の手術のほとんどを伝達ブロックにて行っています。



また橿原市は大和朝廷時代の歴史的情緒の豊かな都市であり、奈良県立医科大学のすぐ周辺には有名な橿原神宮をはじめ、江戸時代の町並みを残す重要文化財がある今井町、その他様々な格調高い神社仏閣などがたくさんあり生活するにも魅力的な地域です。

このような素晴らしい貴重な経験をご許可いただきました山田宏教授、留学をお受けいただいた田中康仁教授を始め奈良県立医大整形外科の医局員の先生方、また私の留学を快く後押ししてくださった和歌山県立医大整形外科の医局員の先生方にこの場をお借りいたしまして深く感謝申し上げます。

